

Letter for Members

【コンテンツ】

- 支部学術大会報告 1
- Pacific Coast Society for Prosthodontics 82nd Annual Meeting 報告 8
- 17th Biennial Meeting of the International College of Prosthodontists 開催報告 10
- 2017 Biennial Joint Congress of CPS-JPS-KAP 開催・参加報告 11
- 第3回補綴歯科臨床研鑽会「プロソ'17」開催報告... 12

支部学術大会報告

●東北・北海道支部学術大会報告

平成 29 年 10 月 28 日および 29 日の両日にわたり、東北大学・星陵オーデトリウムにおいて、平成 29 年度東北・北海道支部総会・学術大会が開催されました。本学術大会では、東北大学 分子・再生歯科補綴学分野 江草 宏 大会長のもと、メインテーマに『補綴歯科材料 update』が掲げられました。

学術大会、併催の専門医研修会および生涯学習公開セミナーでは、『インプラント・再生歯科材料 update』(船登彰芳先生, 高橋 哲先生, 山田将博先生), 『デジタル・歯冠修復材料 update』(峯 篤史先生, 疋田一洋先生, 馬場一美先生) および『補綴主導型インプラント治療 update』(関根秀志先生) をテーマとしたシンポジウムが企画され、各先生方に最先端の歯科材料および治療技術についてお話しをいただきました。また、『よく寝、よく食べ健康長寿』と題した市

民フォーラムでは、小川 徹先生ならびに服部佳功先生に、睡眠時無呼吸症とフレイルの病態と歯科的対応についてわかりやすくご講演いただきました。加えて、一般口演 9 題、ポスター発表 10 題、専門医申請ケースプレゼンテーション 3 題が発表され、活発な質疑応答が行われました。

懇親会では、藩祖・伊達政宗公生誕 450 周年にわく仙台を代表するおもてなし集団・伊達武将隊の発声により、参加者全員で氣勢を上げ、大いに盛り上がりました。

悪天候にもかかわらず、学術大会には約 200 名の皆様にご参加いただきました。この場をお借りして、ご参加いただいた皆様ならびにご協力いただいた東北・北海道支部の先生方に厚く御礼申し上げます。

(東北大 奥山弥生 準備委員長,
山田将博 実行委員長)



シンポジウムの様子：デジタル歯科の最新知見が紹介された



懇親会にて：参加者全員で氣勢を上げ、大会に弾みをつけた



伊達武将隊と記念撮影

● 関越支部学術大会

平成 30 年 1 月 20 日 (土), 栃木県歯科医師会館 (栃木県宇都宮市) において栃木県歯科医師会会長の宮下均会長のもと, 平成 29 年度公益社団法人日本補綴歯科学会関越支部学術大会が開催されました。

特別講演では東京支部の谷田部 優先生による「ノンメタルクラスプデンチャーの現場 - 欠損修復の一翼を担うために考慮すべきこと -」と題したご講演をいただき, ポジションペーパーや最新の知見から, 種々の材料とその特製, 適応症の選択基準, 設計の考え方, 基本的な設計パターン, 臨床上注意する点, メンテナンスにおける対応など非常に詳細且つ丁寧にお話していただきました。併催された関越支部専門医研修会で

は「在宅歯科医療における補綴治療の実際」というテーマで日本歯科大学新潟病院訪問歯科口腔ケア科の白野美和先生と栃木県歯科医師会理事の柏瀬昌史先生にお話ししていただきました。市民フォーラムでは「歯と健康」をテーマにラジオパーソナリティーの嶋 均三先生には「方言・愛とユーモア」と題したご講演をいただき, 日本歯科大学新潟生命歯学部の上田一彦先生には「ご存じですか? 歯が抜けたあとの治療法」と題したご講演をいただきました。75 名の関越支部, 栃木県歯科医師会の先生方にご参加いただき, 多くの貴重な知識を得られた有意義な学術大会となりました。

(新潟大 秋葉陽介)



● 東関東支部学術大会



一般口演発表における会場風景



専門医研修会 (併催) の会場風景

平成 30 年 2 月 24 日 (土), 25 日 (日) 浦和ロイヤルパインズホテル (埼玉県さいたま市) にて明海大学歯学部機能保存回復学講座歯科補綴学分野 大川周治 大会長のもと平成 29 年度公益社団法人日本補綴歯科学会 東関東支部総会・第 21 回学術大会 (平成 29 年度 埼玉県歯科医学大会との併催) が開催されました (189 名参加 [埼玉県歯科医師会会員 73 名を含む])。

専門医研修会を 2 月 24 日 (土) に併催し, 本学会理事長 市川哲雄 先生および岡山大学 窪木拓男 先生

をお招きして「補綴治療の症型分類を理解する」のテーマでご講演をいただきました (78 名参加)。

2 月 25 日 (日) の第 21 回学術大会では, 一般口演 9 演題, 専門医ケースプレゼンテーション 6 演題の発表があり, 活発な質疑応答とともにケースプレゼンテーション審査が行われました。

市民フォーラム (併催) では, 「咀嚼は脳を活性化」をテーマとして, 日本大学松戸歯学部 川良美佐雄 先生をお招きして, 「咀嚼は認知症を防げるか?」

についてご講演をいただきました (77 名参加)。生涯学習公開セミナー (併催) では、日本大学 飯沼利光先生および明海大学 大岡貴史先生をお招きして、「在宅医療における口腔機能管理のあり方」というテーマでご講演いただきました。講演後、会場において活発

な質疑が行われました (43 名参加)。

多くの方々にご参加いただき、参加者同士の交流を深める場として有意義な学術大会となりました。

(明海大 岡本和彦)

●東京支部学術大会

2017 年 12 月 2 日 (土)、3 日 (日) 東京歯科大学 水道橋校舎 (東京都千代田区) において、東京歯科大学 パーシャルデンチャー補綴学講座 山下秀一郎大会長のもとで、平成 29 年度公益社団法人日本補綴歯科学会東京支部総会・学術大会が開催されました。

今回の学術大会では、特別講演として東京歯科大学の橋本正次先生より「進化から見た咬合」と題してご講演いただき、脳頭蓋骨と顔面頭蓋骨の特徴、今後起こりうる頭顔面部の変化などについてご教示いただきました。また、一般口演 22 題、専門医ケースプレゼンテーション 2 題が発表され、活発な質疑応答が行われました。

併催企画も充実し、生涯学習公開セミナーでは「ワランク上の接着 われない、はずれない CAD/CAM

レジン冠、オールセラミック冠」というテーマで、愛知学院大学の富士谷盛興先生をお招きし、補綴装置の接着技法に関する最前線の内容を伺いました。専門医研修会では「インプラントオーバーデンチャーに必要なパーシャルデンチャーの基本」をテーマに東京支部の藤関雅嗣先生、「生体にやさしいチタン合金開発と加工技術の最前線」をテーマに東京歯科大学の服部雅之先生を講師にお招きし、臨床と基礎の両立場から非常に熱い講演をいただきました。市民フォーラムでは、「美味しく食べて目指せ健康長寿」と題し、東京歯科大学の大平真理子先生に講演をお願いし、一般の方々に分かりやすくお話をいただきました。

今年度は 432 名と多数の参加者があり、盛会裏に終了することができました。

(東歯大 準備委員長 田坂彰規)



特別講演 橋本正次先生



専門医研修会 藤関雅嗣先生

●西関東支部学術大会

平成 30 年 1 月 14 日 (日) に神奈川県川崎市神奈川歯科大学附属新病院において、平成 29 年度 (公社) 日本補綴歯科学会西関東支部学術大会並びに総会を神奈川県川崎市神奈川歯科大学の後援の下、神奈川歯科大学大学院歯学研究所 口腔統合医療学講座 補綴・インプラント学 木本克彦を大会長として開催いたしました。また併催として、学術大会終了後に生涯学習公開セミナーを、1 月 13 日 (土) には専門医講習会をそれぞれ開催いたしました。

今回の西関東支部学術大会では、口演発表 8 演題、

ポスター発表 5 演題が発表され、大会のメインテーマである「Prosthodontics meets Digital! 補綴治療とデジタルとの遭遇—現状と近未来—」として特別講演を木本克彦先生の座長で「補綴・インプラント治療におけるデジタルワークフローの現状」を星 憲幸先生 (神奈川歯科大学准教授)、「外科矯正におけるデジタルワークフローの現状」を不島健持先生 (神奈川歯科大学教授)、「グローバルなデジタル歯科ビジネスの近未来」を岡田和典先生 (金沢工業大学客員教授) にご講演いただきました。参加者は学術大会が 149 名、専門医講習会が 45 名、生涯学習公開セミナーが 48

名と多くの先生方のご参加をいただきました。各演題とも参加者の積極的な質疑が行われ、充実した学術大会となりました。

また、併催いたしました専門医研修会は、井野 智先生（神奈川歯科大学教授）を座長に「補綴装置の耐久性向上を目指して」をメインテーマとして、二瓶智太郎先生（神奈川歯科大学教授）は「基本的な接着操作の振り返り」、二階堂 徹先生（東京医科歯科大学講師）は「高齢者の歯をどうやって保存するか」についてご講演いただきました。生涯学習公開セミナーは、「義歯内面には、柔らかい材料が良いのか？ - 軟質リライン材の正しい使い方 -」をメインテーマとして、村田比呂司先生（長崎大学教授）は「軟質リライン材の性質と臨床術式」、木本 統先生（日本大学松戸歯学部准教授）は「臨床研究から得られた軟質リライン

材のエビデンス」を大久保力廣先生（鶴見大学教授）の座長の下、われわれ補綴医が知りたかった内容を興味深く講演をしていただき参加者からも惜しみのない拍手が送られました。

冬の寒さが身に染みる天候でしたが、これからの歯科補綴学を考える場として、またさまざまな研究分野についての研鑽の場として、参加者の方々との深い交流と討議で会場内は盛り上がり過ぎて過ごせた1日となりました。

この場をお借りして参加者並びに関係者に厚く御礼を申し上げます。

神奈川歯科大学大学院歯学研究科
口腔統合医療学講座 補綴・インプラント学
平成 29 年度（公社）日本補綴歯科学会
西関東支部学術大会 実行委員長 星 憲幸



木本大会長の開会のご挨拶



井野支部長と木本大会長 木本大会長への感謝状贈呈

●東海支部学術大会

平成 29 年 10 月 28 日（土）、29 日（日）、愛知学院大学楠元キャンパス 110 周年記念講堂において、愛知学院大学歯学部有床義歯学講座の武部 純 大会長のもと、平成 29 年度公益社団法人日本補綴歯科学会東海支部総会・学術大会が開催されました。本学術大会は、メインテーマに「補綴歯科治療の基本に立ち返る」を掲げて企画致しました。一般口演の発表は 12 題、専門医ケースプレゼンテーションは支部学術大会としては多い 7 題の発表があり、若手の会員の意識の高さが伺われ、活発な質疑応答が行われました。

特別講演には、松本歯科大学の羽鳥弘毅教授に「咀嚼能力検査ならびに咀嚼機能検査に関する検討および考察」と題し、補綴歯科治療による客観的な機能評価の重要性についてご講演をいただきました。併催された愛知県歯科医師会との共催による市民フォーラム「在宅医療における口腔健康管理」では、愛知学院

大学の杉本太造准教授と愛知県歯科医師会の富田健嗣先生により口腔ケアの重要性や歯科医師会の組織的な取り組みについてご講演いただきました。専門医研修会では松本歯科大学の黒岩昭弘教授、朝日大学の藤原周教授に「無歯顎補綴治療の基本：臨床に役立つ全部床義歯のポイント」について、生涯学習公開セミナーでは東海支部の山本司将先生、東京歯科大学の山下秀一郎教授に「顎間関係の設定の基本：診察・検査から診断まで」についてご講演をいただきました。補綴歯科治療の診療手技にいたる詳細な解説は会員にも好評で、併催企画はとて充実した有意義な研鑽の機会となりました。学会初日にはキャンパス内のカフェテリアにて、会員間の情報交換や親睦を深める懇親会が行われ、盛り上がりしました。

季節外れの台風 22 号が接近する中での開催となりましたが、参加者数は延べ 256 名という盛況ぶりです。会を終えることができました。今回の学術大会が会員

や地域開業の先生方との学術交流，一般市民の皆様の知識の向上に大いに役立てたものと考えております。



左から市民フォーラム講師の杉本先生と富田先生，武支部部長，座長の服部先生

ご協力いただいた関係各位に心からお礼申し上げます。
(愛院大 尾澤昌悟，熊野弘一)



左から生涯学習公開セミナー講師の山下先生と山本先生，座長の中本先生，武支部部長

●関西支部学術大会

平成30年1月20日(土)，21日(日)，一般社団法人 京都府歯科医師会(安岡良介会長)の後援で同歯科医師会口腔保健センター(京都市中京区)において，大阪大学大学院歯学研究科顎口腔機能再建学講座矢谷博文大会長のもと，平成29年度公益社団法人日本補綴歯科学会関西支部総会・学術大会が開催されました。

今回の学術大会では，補綴に使用される特徴的な材料に関して，大阪大学大学院歯学研究科歯科理工学教室の今里 聡教授により，「歯科材料の最新情報－バイオアクティブな材料を補綴臨床に役立てよう－」と題した特別講演を通じて，わかりやすく解説いただきました。このほかに，一般口演19題，専門医ケースブ

レゼンテーション2題の発表がありました。一般口演は，九州支部や東京支部からも申し込みをいただき，基礎から臨床まで多岐にわたる内容になりました。

併催の生涯学習公開セミナーは，「ブラキシズム－今分かっていることとその対応法」をテーマとして，加藤隆史教授(大阪大学大学院 口腔生理学教室)，山口泰彦教授(北海道大学大学院 冠橋義歯補綴学教室)，藤澤政紀教授(明海大学 歯科補綴学分野)の3名の先生方に，ブラキシズムに関する最新の知識と具体的な対応法について解説いただきました。

この時期の京都としては，比較的天候にも恵まれ，約300名の方々に参加をいただきました。開催に際し，ご尽力をいただいた京都府歯科医師会をはじめとする関係の方々に心よりお礼申し上げます。



特別講演の今里 聡教授と矢谷大会長



生涯学習公開セミナー講師によるディスカッション

●中国・四国支部学術大会

平成29年度公益社団法人日本補綴歯科学会中国・四国支部総会ならびに学術大会が、平成29年8月26日(土)、8月27日(日)の2日間、小山茂幸大会長のもと、山口市の山口県歯科医師会館において開催されました。初日は市民フォーラムをかわきりに、9演題の一般口演が行われ、活発な質疑応答が交わされました。夕方にはホテルかめ福にて懇親会が盛大に開催されました。2日目にはポスター発表10演題の討論のあと、特別講演が執り行われ、学術大会後には、生涯学習公開セミナーと専門医研修会を開催し、200名の先生方に参加していただきました。

市民フォーラムでは「在宅医療における口腔機能管理～食べるを支える」という演題で広島大学大学院医歯薬保健学研究科先端歯科補綴学研究室教授津賀一弘先生から、口腔機能の重要性についてわかりやすくご講演いただき、そのあと、日本歯科大学大学院生命歯学研究科口腔機能学教授菊谷 武先生から、口から食べる大切さとそのための在宅支援といった地域包括ケアに向けたこれからの歯科のあり方について市民に強く啓発していただける内容となりました。

特別講演では、徳島大学を退職され徳島文理大学口腔保健学科教授に就任された西川啓介先生より「噛むことをめぐる研究」と題して先生のこれまでの研究の

道程と今後の展開についてお話いただきました。

生涯学習公開セミナーでは「包括的歯科診療と補綴処置」をテーマに、広島市で開業されている石田秀幸先生と周南市で開業されている小川博明先生から、非常にアトラクティブな講演をいただきました。主催者側の不手際で、症例写真が見えにくいなどのトラブルがあったにもかかわらず先生方の熱意あるご講演に多くの参加者が感銘を受けていました。

専門医研修会では、「CAD/CAM 補綴の現況と展望」と題して、北海道医療大学歯学部口腔機能修復・再建学系デジタル歯科医学分野教授疋田一洋先生より「デジタルデンティストリーへの期待と展望」、大阪大学大学院歯学研究科助教峯 篤史先生より「CAD/CAM 補綴の現況と展望：CAD/CAM 冠およびジルコニアに対する接着のエッセンス」といった演題でご講演いただき、専門医研修会にふさわしい最新の知見を多く供覧していただきました。

本学術学会では、スライド映写のトラブルや講演時間の延長など参加された先生方にはいろいろとご迷惑をおかけして申し訳ありませんでした。しかしながら2日間を通して、参加者の熱い熱気のなか最新の研究発表から日常臨床に役立つ内容まで非常に内容の濃い学術大会となりえたことを深く感謝しております。

(広島大 吉田光由)



市民フォーラムの会場の様子



特別講演の様子

●九州支部学術大会

平成 29 年 8 月 27 (日) に鹿児島大学稲盛会館、学習交流プラザ (鹿児島市) において西村正宏大会長のもと、平成 29 年度公益社団法人日本補綴歯科学会九州支部学術大会が開催されました。

一般口演 8 題とポスター発表 11 題が発表され、活発な質疑応答が行われました。

特別講演は、福岡歯科大学口腔医療センター長の佐藤博信先生をお招きし、「今まで学んだ歯科補綴の大切さを振り返り今後の歯科補綴の展開を考える」と題して、先生の多くのご研究と臨床から歯科補綴の大切さと今後の展望についてお話いただきました。また、教育講演では神奈川県開業の武内博朗先生に「欠損回復から代謝・体組成を改善する歯科補綴への取り組み」と題し、咀嚼機能回復後の代謝改善を見据えた保健指

導の重要性についてご講演いただきました。

併催された生涯学習公開セミナーでは、国立長寿医療研究センターの大野友久先生に「嚥下補助装置についてー歯科医師にしかできない摂食嚥下障害へのアプローチー」についてご教示いただき、次いで鹿児島大学病院義歯補綴科講師の村上が「開窓術後に適用する栓塞子ー設計、製作方法ならびに治療成績についてー」について話をしました。市民フォーラムでは、鹿児島大学咬合機能補綴学分野の南 弘之教授に「かみ合わせを保つことの大切」と題し、歯や口腔の健康と咬合の大切さを一般の方にわかりやすくお話いただきました。

232 名の先生方にご参加いただき、盛況の内に会を終えることができ、関係各位に厚く御礼申し上げます。

(鹿児島大 村上 格)



特別講演講師の佐藤先生 (左) と西村大会長 (右)



ポスター発表会場の風景



Pacific Coast Society for Prosthodontics 82nd Annual Meeting 報告



Rodger Lawton 会長による開会時の基調講演



プログラムチェアーの Dr. Chandur Wadhvani (右) と Scientific Program の最初のセッションでタイトル「Enhancing Esthetic Outcomes by Integrating a Minimally Invasive Approach to Complex Dental Problems」を講演した Dr. Frank Spear (左) 及び Dr. David Mathews (中)



学会の朝食会場にて University of California, San Francisco (UCSF) の Prof. Donald Curtis (左から 2 番目) や Journal of Prosthetic Dentistry の Editor である Ohio State University の Dr. Stephen Rosenstiel (右) と対話中の風景



最終日の President's Installation & Dinner/Dance での Executive Officers のメンバー。ディナーは基本的にドレスコードが Black Tie である。

2017 年 6 月 28 日から 7 月 1 日まで、Pacific Coast Society for Prosthodontics (PCSP) 第 82 回年次総会がアメリカのアイダホ州コー・ダリーン (Coeur d'Alene) にて開催されました。会場の The Coeur d'Alene Resort は湖に面したホテルであり、湖の上にグリーンを浮かべたゴルフコースが有名です。コー・ダリーンは周りが森に囲まれたリゾート地であり、会期中も良く晴れて、過ごしやすい天候でした。今回は日本補綴歯科学会と会期が重なったため、日本から唯一の参加者として Speaker を務めさせていただきました。

学会は午前中に Scientific Session があり、午後は Social Program (3 日間 Wine Tasting でした)、夕刻からは Reception や Dinner となります。また、初日午前中のゴルフトーナメントや、中日は近くの牧場

の隣接レストランでジョンデンバーそっくりさんのショーを楽しみながらカウボーイスタイルの Dinner を楽しむといった、かなりリラックスした雰囲気でのプログラムとなっていますが、実はこういったゆったりとした対話の中から新しい繋がりや次の臨床のヒントが生まれてくるのを実感しました。そうは言っても学会のテーマは「Prosthodontics: Artistry Driven by Science」であり、Scientific Session では現在のアメリカ西海岸の補綴事情を強く反映した大変有意義な講演ばかりでした。

初日の講演は、Frank Spear 先生と David Mathews 先生という大御所 2 名による講演でしたが、審美的難症例への最小限での侵襲的アプローチという示唆に富んだ話から始まり、概ねインプラント補綴に関する講演が続きました。2 日目もインプラント補綴が中心で

したが、全部床義歯の CAD/CAM 等、最新の器材や技術の紹介も盛んでした。最終日は咬合やブラキシズム、またそれらを考慮した審美補綴とその新しい材料や技術を紹介する内容の講演が続きました。インプラント補綴の講演の中には、放射線領域や外科領域の演者もあり、そのことがより大会全体の層を厚くしている感がありました。また業者展示は、ほとんどインプラント補綴や CAD/CAM, デジタルデンティストリー

の内容となっており、アメリカ西海岸の補綴歯科専門開業医のレベルの高さを考えさせられるものでした。

次回の PCSP は Omni La Costa Resort and Spa, Carlsbad, California で 2018 年の 6 月 27 日から 30 日の日程で行われます。アメリカ西海岸の最新補綴事情を知るには絶好の機会ですので、会員の皆様も参加されることをお勧めします。

(国際渉外委員会副委員長 日大松戸 小見山 道)

17th Biennial Meeting of the International College of Prosthodontists 開催報告

2017年9月7日～9日にかけて、国際補綴歯科学会(ICP)会長Dr. Mario Bresciano(イタリア)とDr. Brian Fitzpatrick(オーストラリア)のもと第17回ICP(International College of Prosthodontists) Meetingがチリの首都サンティアゴにて開催されました。南北約4,630kmに及ぶ国のほぼ中央で標高520mに位置するサンティアゴからの眺望は、夕日に照らされたアンデス山脈が壮観でした。日本からは地球の裏側に位置するため、渡航には乗り継ぎを含め24時間以上かかり、会期中は肌寒い早春のような気候でした。そのような中でICP評議員の矢谷博文教授(大阪大)はじめ、多数の本学会員が出席しました。

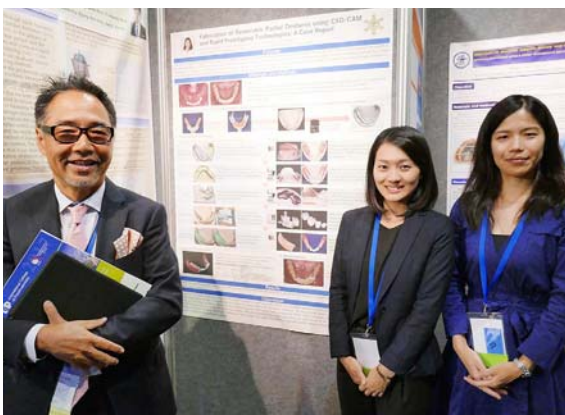
学術講演は2つのFocus Session, 8つのConcurrent Sessionで構成され、また、108題のOral Presentation, 79題のPoster Presentationが行われ各会場で活発な討議が繰り広げられました。日本からもOral Presentation 2題, Poster Presentation 14題の発表があり、Ceramics & Estheticsのセッションでは矢谷博文教授が務められ、Patient Specific Presentationsのセッションでは本学の馬場一美教授(昭和大)が座長を務めました。インプラント補綴、デジタルデンティストリー、審美、マテリアルなどの幅広い領域にわたり発表がなされていましたが、“Less is More”のキーワードで顎顔面補綴学や老年歯科学領域にもフォーカスされていたのが非常に印象的でした。ちな

みに総会において馬場教授の次期ICP評議員への就任が決まりました。

私は今回が初めての国際学会参加で、“Fabricating removable partial dentures with CAD/CAM and rapid prototyping technologies”(CAD/CAMおよびラピッドプロトタイピング技術を用いた可撤性部分床義歯の製作)という演題でポスター発表を行いました。国外のデジタルデンティストリーに携わる研究者から多くの質問をいただき、ディスカッションをしていく中で、研究内容を別の視点で捉える大変貴重な機会となりました。また、日本の補綴歯科領域におけるデジタルデンティストリーの研究が世界に誇れるものであることを実感し、一つの自信となりました。

日本におけるワイン輸入量は2015年からフランスを抜いてチリが約30%を占め第1位となっており、サンティアゴ周辺は特にカベルネ・ソーヴィニヨンが有名だそうです。最終日のPresidential Reception & Banquetでは美味しい赤ワインを片手に、さまざまな国の先生と楽しいひとときを過ごし交流を深めました。

なお、第18回ICP Meetingは、2019年9月4日～7日にアムステルダム(オランダ)にて開催される予定です。末筆ながらこのような機会を与えて下さった日本補綴歯科学会の関係各位に厚く御礼申し上げます。
(昭和大 谷口飛鳥)



ポスター発表の前で



最終日のPresidential Reception & Banquetにて

2017 Biennial Joint Congress of CPS-JPS-KAP 開催・参加報告

平成 29 年（2017 年）10 月 19 ～ 21 日の 3 日間、2017 Biennial Joint Congress of CPS-JPS-KAP（日中韓合同補綴学会）が開催された。開催地となった温州は、中国浙江省の東南沿海に位置する総人口約 912 万人の都市であり、温州商人に代表されるよう商業都市として知られている。日中韓合同補綴学会は Japan Prosthodontic Society, Chinese Prosthodontic Society, Korean Academy of Prosthodontics が国際交流協定を締結し、第 1 回は 2008 年に日本の名古屋、2011 年に中国の上海、2013 年に韓国の済州島、2015 年に日本に戻って箱根で開催され、今回は第 5 回として中国での開催となった。

演題募集期間が極めて短かったにも関わらず中国側から 200 名以上、韓国から 30 名の参加があり、会場も豪華で活気に満ちた学会となった。初日は、大会長である Prof. Hongcheng Liu の挨拶で始まり、市川哲雄理事長からも開会の挨拶が行われた（写真 1）。続いて、特別講演 18 演題、ポスター発表 81 演題と多くの演題が発表され、特別講演は Implantology と Comprehensive Prosthodontics の 2 つのトピックで行われたが、その内容は基礎的なものから CAD/CAM や光学印象など最新の臨床手技まで多岐に渡っていた。日本補綴歯科学会からは、招待講演として江草 宏先生（東北大）が「Emerging Approaches

for 'Regenerative Prosthodontics」を、後藤崇晴先生（徳島大）が「Frailty and oral frailty in super-aged society: Physiological considerations and prosthodontics strategy」を、近藤祐介（九州歯科大）が「Development of novel treatment for dry mouth -preliminary animal studies-」を発表した。また 2 日目の夜には Welcome Banquet が催され、各国の参加者が交流を深め、有意義な情報交換の場となった（写真 2）。

なお、2 日目の午後に 3 カ国の代表による Executive Meeting が行われ、次回は 2 年後の 2019 年に韓国ソウルでの開催が正式に決定された。また、日中韓合同補綴学会が開催されない年にも 3 カ国の代表による小規模な国際セッションをそれぞれの国の学術大会で併催し、毎年友好を深めてはどうかという意見が出され、まずは 2018 年に日本（岡山）でやってもらえないかという提案がなされた。この件についてその後、学術委員会や次期学術大会長の皆木先生とともに検討し、日中韓国際セッションーアジアにおける補綴治療の最前線ーとして開催されることとなった。

九州歯科大学 歯学部

口腔再建リハビリテーション学分野

細川隆司（国際渉外委員会委員長）

近藤祐介（国際渉外委員会幹事）



写真 1 開会の挨拶をされる市川理事長

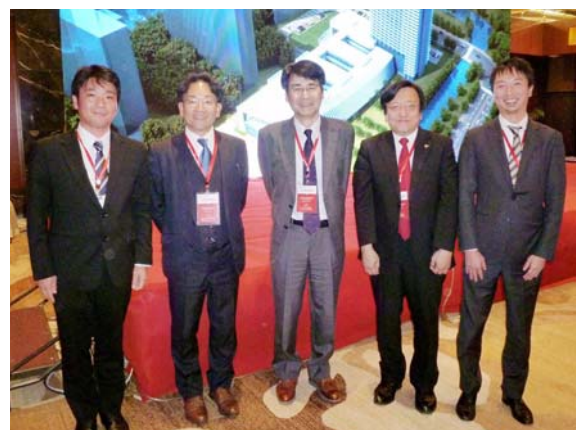


写真 2 JPS からの参加メンバー

第 3 回補綴歯科臨床研鑽会「プロソ'17」開催報告



平成 29 年 12 月 17 日 (日)、大阪国際会議場 12 階特別会議場において「第 3 回補綴歯科臨床研鑽会プロソ'17」を「デジタル化による補綴治療の新しい潮流」をテーマに開催し、全国各地から約 300 名が参加された。本研鑽会は、補綴歯科専門医を志す会員やすでに専門医となった会員のための研鑽の場、さらには若手・中堅会員のための発表の登竜門として 2014 年から設けられている。

開会式での末瀬一彦大会長および市川哲雄理事長の挨拶に引き続き、シンポジウム 1「クラウン・ブリッジにおけるデジタルデンティストリー」が行われた。最初に伴 清治氏は「デジタルデンティストリーにおける材料選択」と題し、CAD/CAM 用材料の選択基準に関し、とくにジルコニア材料について詳説。高透光性ジルコニアが多数登場してむしろ混乱を招いているなか、今後もっとも汎用性が期待されるのは 4Y-TZP であるとした。次に小池軍平氏は「どう選ぶ、チェアサイド型 CAD/CAM とネットワーク型 CAD/CAM」と題し、精度や適応症の面からチェアサイド型 CAD/CAM とネットワーク型 CAD/CAM の臨床的な選択基準について示唆した。また、若手・中堅研究者の講演として新谷明一氏 (日歯大) は「デジタル時代の適合に対する考察と臨床」と題し、

CAD/CAM の精度に影響する印象採得工程、CAD による設計工程、および CAM による加工工程においてそれぞれ生じる要素について検討した。また田邊憲昌氏 (岩手医大) は「下顎運動を咬合面形態に反映した CAD/CAM クラウン製作」と題し、下顎運動測定装置によるデータを用いた CAD/CAM クラウンの調整量は通法による製作と比較して少なくなることを示した。また井川知子氏 (鶴見大歯学部) は「クラウンブリッジ補綴における医用画像工学技術と CAD/CAM 技術の融合」と題し、FGP テクニックをデジタルで行う「デジタル FGP テクニック」の概要について示し、本法を用いることでより機能に調和したクラウンの製作が可能となることを示した。そして上村江美氏 (昭和大歯学部) は「口腔内スキャナーとジルコニア材料の最前線」と題し、口腔内光学印象とモノリシックレストレーションの活用、そして模型を介さない補綴物製作が将来の補綴治療を合理化させることに繋がるとした。

午後から行われたシンポジウム 2「インプラント治療におけるデジタルデンティストリーの活用」では正木千尋氏が「インプラント治療におけるデジタルデンティストリーの有効性」と題し、主にサージカルガイドの種類およびそれぞれの精度について概観した。次に

千葉豊和氏は「BUDDING DIGITAL DENTISTRY」と題し、BUDDING（英：芽が出かけた、世に出始めた）な位置付けにあるデジタルデンティストリーの活用に関し、こちらもサージカルガイドの製作法をメインに症例とともに供覧した。次に若手・中堅研究者の講演として今 一裕氏（東医歯大）は「デジタル化によるインプラント治療の現状と展望」と題し、ガイドサージェリーを駆使した3症例を供覧、単冠から下顎骨切除後の再建症例に至るまでを供覧した。また横山紗和子氏（昭和大歯学部）は「日常診療となったデジタルデンティストリー in インプラント」と題し、インハウスでサージカルガイドを製作できる CEREC Guide の紹介や、インプラント治療計画用ソフトウェアの NobelClinician の紹介などを行った。また丸尾勝一郎氏（神歯大口腔統合医療学講座補綴・インプラント学）は「インプラント治療における口腔内スキャナの有用性と課題」と題し、とくに臨床における口腔内スキャナー使用上の注意点について詳説。スキャナーの動かし方などにつき、根拠とともに示した。そして最後に中野 環氏（大阪大）が「デジタルを用いたア

ウトカム評価から考える前歯部インプラント治療」と題し、前歯部インプラント治療に係る硬・軟組織造成前後の経過に関し、デジタル技術を用いて評価した結果について示した。

今回の臨床研鑽会では、臨床に直結する有意義な講演が続き、クラウン・ブリッジおよびインプラント治療におけるデジタル化の進展についてアップデートな話題適用が行われた。

また今回の大会では、賛助会員を中心に企業のご協力もいただき、ランチョンセミナー（デンツプライシロナ・ストローマンジャパン・スリーエム）や企業展示（13社）も行い、活況を呈した。

今回の「プロソ'17」の開催にあたり、学術委員会および専門医制度委員会をはじめ役員の方には企画から運営にいたるまで多大なご尽力を賜りましたことに感謝申し上げます。なお、次回の開催は時期未定ながら、日歯大新潟生命歯学部（渡邊文彦大会長）を主管校として開催される予定である。

プロソ'17 大会長 大阪歯科大学 末瀬一彦

【投稿募集】

Letter for Members では、各支部の学術大会報告、日々の研究の報告など、会員の皆さまの投稿をお待ちしております。採否は事前にお知らせいたします。

投稿は、公益社団法人日本補綴歯科学会事務局（jpr-edit01@max.odn.ne.jp）まで、メールにてお寄せください。